

(1) 築瀬あったかリンク事業

築瀬あったかリンク事業

～ 地域をひらく、
心をつなぐほっこり居場所ネットワーク構想 ～

宇都宮共栄大学 地域お助け隊×2年三浦ゼミ連合研究会
・植木 翔瑛・川又 実来・小山 慶二・半田 初音・樋山 美羽
・菅野 樹里・高橋 奏多・宇梶 葵

1

提案の背景

「第5次宇都宮市総合計画」
「ネットワーク型コンパクトシティ」
持続可能性のあるものとするためには

▶

人・土地の集約をトッダウンで進めるだけでなく、
都市拠点およびその周辺圏域における
「地域コミュニティ」の持続的な確保が必要

人と人とのつながりを保ち続けることが重要

2

提案の背景

都市拠点およびその周辺圏域を含む
「築瀬地区」
JR宇都宮駅南側に広がっており交通利便性が高い

- ◆ 子育て世帯など若い世代の流入
- ◆ 古くからの住宅地として長年居住する高齢者
- ◆ 築年数の古いマンションに住む外国人住民

▶

多様な属性・ライフスタイルをもつ住民が混在する地域

3

提案の背景、目的

近年の課題

自治会加入率の低下
地域行事の参加者の減少

▶▶▶

地域コミュニティ
の弱体化が懸念

「築瀬地域コミュニティセンター」を拠点として
「空き空間」を活用する「居場所ネットワーク」を構想

▶

目的

「温かみを感じられる人と人とのつながりを確保し
安心感が得られる地域社会の実現を目指す」

4

現状分析 —ヒアリング—

築瀬地域まちづくり推進協議会へのヒアリング
文化推進協会会長・Sさん
宿郷2丁目自治会会長・Sさん

築瀬地域まちづくり推進協議会
築瀬地区連合自治会、築瀬地区健康づくり推進委員会、築瀬小学校PTAなど、築瀬で地域活動を行っている団体が多く所属しており、地域の環境や安全、文化、福祉、子ども育成などに関する様々な活動を行っている

5


現状分析 —ヒアリング—

「築瀬地域まちづくり推進協議会」は「築瀬地域コミュニティセンター」を中心に地域活動が盛んに行われており、各種団体間の交流も活発である。

しかし地域行事等に参与する住民は年々減少している

- 共働きの子育て世帯は日常生活に手一杯
- 自治会役員の高齢化
- 若者や单身世帯は地域活動への関心が薄い

新たな担い手が参入しないことから、後継者不足が深刻化

 **文化推進協会会長・Sさん**


6

現状分析 —ヒアリング—

宿郷2丁目自治会の加入率は近年低下傾向

主な理由として、
自治会加入が任意であるため強制力がない

また住民からは
「加入するメリットが分からない」
「自治会の活動内容が見えにくい」
といった声が多い、とのことである。

 **宿郷2丁目自治会会長・Sさん**

7

現状分析 —築瀬地区文化祭—


築瀬地区文化祭への出店

【主催】
まちづくり推進協議会

【開催日時】
2025年11月1日

【開催場所】
築瀬地区コミュニティセンター
築瀬小学校

【実施内容】
「炭火焼き売店」「輪投げレース」
「脳×体！チャレンジゲーム&購読器体験」
「大谷石ピザ窯」



築瀬地区文化祭チラシ (地域お助け隊作成)

8

現状分析 ー築瀬地区文化祭ー

築瀬地区文化祭

- ◆ 6月から実行委員が発足
 - ◆ 協議会との共同のイベント立案
 - ◆ 毎月の定例会議への参加
- 本番まで約半年の準備期間を経て実現

ー交流のあった団体

- ・ 築瀬まちづくり推進協議会
- ・ 健康づくり推進員会
- ・ さつきホームクリニック
- ・ 宇都宮共和大学陣内ゼミ
- ・ 築瀬小学校の職員

日時	内容
6/19	第1回築瀬地区文化祭会議
7/20	「大谷石ピザ窯」企画書作成
7/26	第2回築瀬地区文化祭会議
8/28	「大谷石窯ピZZA」の平野さんへヒアリング
8/30	第3回築瀬地区文化祭会議
9/11	第1回大谷石ピザ窯製作
9/20	第4回築瀬地区文化祭会議
9/27	築瀬地区文化祭チラシ作成
10/1	築瀬地区文化祭チラシ印刷
10/5	自治体回覧版にてチラシ配布
10/8	第2回大谷石ピザ窯製作・火入れ
10/13	保健所・消防署へ申請書類の提出完了
10/18	第5回築瀬地区文化祭会議
10/25	社会福祉文化祭「ふるさと祭」にて大谷石ピザ窯の自給自足ピZZAを提供
10/31	築瀬地区文化祭 前日準備
11/1	築瀬地区文化祭2025 開催

9

現状分析 ー築瀬地区文化祭ー

地域お助け隊出店 「大谷石ピザ窯」

- ◆ 石蔵であった大谷石の古材を加工、リユースし誕生
- ◆ 令和7年度大学コンソーシアムとちぎ学生活動支援事業として活動
- ◆ 地域の象徴としてイベントに参加した人々の関心や話題を算め、「人と人を繋ぐ装置」としても機能



築瀬地区文化祭 大谷石ピザ窯の様子

10

現状分析 ー築瀬地区文化祭反省ー

- ◆ 連絡ツールとしてグループLINEを活用した
→グループへの参加、情報共有ができていないケースが多く発生した
- ◆ チラシなどの広報物をデジタルで作成
→制作が若手に集中
- ◆ 当日スタッフのボランティア募集に宇都宮市の「まちづくり活動応援事業」を利用し募集した
→ボランティアの集まりが悪く、「まちづくり活動応援事業」が各種地域団体に十分活用されていない

高齢者世代にとって、デジタルツールの活用自体が地域イベントの運営における大きなハードルとなっている

11

現状分析 ーアンケート調査ー

アンケート調査

子ども（小学生33名・中学生3名）
および大人48名を対象に
アンケート調査を実施

詳細は提案書、ポスターに記載



年代	スマホ/パソコンへの習熟意識 (回答対象：大人)				合計
	多く感じる	やや感じる	やや感じない	全然感じない	
20代以下	4	1	0	0	5
30代	6	0	0	0	6
40代	5	3	0	0	8
50代	1	0	1	0	2
60代以上	0	0	4	0	4
合計	16	5	0	0	21

年代	大学によるスマホ/パソコン講座の希望意識 (回答対象：大人)				合計
	多く希望する	やや希望する	やや希望しない	全然希望しない	
20代以下	2	1	0	0	3
30代	2	0	1	0	3
40代	2	0	2	0	4
50代	1	0	1	0	2
60代以上	0	0	1	2	3
合計	7	3	4	3	17


高齢者はデジタルに苦手意識を感じている人が一定数いる

12

例3 「公園まっこりマルシエ」

目的
公園を子育て世帯が気軽に食と遊びを通して交流できる場に創出すること

内容
大谷石ピザ窯を用いて市内の公園で焼きたてピザの出張販売を実施
地域の規格外野菜などを積極的に分けてもらい活用



大谷石ピザ窯は築港地区文化祭で実施
100食以上のピザトーストを販売!!

食と遊びで公園に日常的に訪れる
きっかけを作り、地域交流を促進

17

**例4 多様な居住者の交流を目的とした
多主体連携マルシエの開催**

過去に共和大学の学生が田川で
宮校祭2024（まちまちサークル）
宮校祭2025（地域お助け隊）
など
田川遊歩道において
にぎわい創出イベントを成功させている




宮校祭2025の様子

田川が多様な住民の交流拠点として
高いポテンシャルを持つことを確認

18

**例4 多様な居住者の交流を目的とした
多主体連携マルシエの開催**

築瀬あつたかりリンクプロジェクトの実現
築瀬地区を流れる「田川」の遊歩道にて
「高齢者」「外国人居住者」「子育て世帯」
多世代交流できるような
地域行事の開催が可能に



築瀬地域コミュニティセンター
で活動している地域サークルに
よる出店
学生は
・企画運営
・デジタル広報
・来場者サポート

19

提案のまとめと展望

提案した施策を段階的に実施し、
継続的な交流を生み出す取り組みへ発展
地域の若者や団体が目的に応じて地域内空間の活用を申請

公園まっこりマルシエ → 空き家 多文化ワールド食卓

築瀬地域コミュニティセンター
地域内交流の拠点、窓口
シニア向けデジタルセミナー

まちづくり活動応援事業の促進
宇都宮市の政策ともリンク

田川
「いつもの場所」「いつものつながり」と感じられる居場所の創出

多主体連携マルシエ

20

ご清聴ありがとうございました

21